

科目名	教育認識論特殊研究	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、博物館教育における知識論の議論や人工知能を進展とともに変わりゆく知識観や教育観に関する議論を踏まえながら、教育における認識論という基本的かつ根源的な問題について探究していく。この学修を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>①仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>②創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】</p> <p>③さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。【A-7:4】</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>今日の博物館教育における知識論の課題や人工知能とこれからの教育のあり方を把握するために、哲学的な理解を深め、論理的・批判的思考力を身に付けながら、今後の教育のあり方を創造することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館教育の課題を哲学的な観点から理解することができる (知識・解釈)。 ・課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的に分析ができる (技能)。 ・自ら問いを発見し、自分の考えを論理的に説明することができる (知識・問題解決)。 ・人工知能の問題を踏まえつつ、これからの教育のあり方を示すことができる (態度)。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能(「スレッド」)に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>また、博物館などで実地調査し、知識のあり方について考察する。</p> <p>【学修方略 (LS)】レポート作成</p> <p>まず、基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、関連する図書や文献を読み、課題に関する理解を深めてほしい。とくに、基本教材1で論じられている生活指導の立場と生徒指導の立場の特徴や違いを踏まえて検討してほしい。基本教材2は、移行プロセスの現状と課題を把握し、著者が主張するキャリア教育とは何かを理解してほしい。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下の目安に最低45時間の学修時間をようするものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本教材および参考文献の学修、博物館への調査：20時間 ・レポートの執筆：10時間 ・レポートの推敲と最終稿の完成(教員の添削指導を含む)：15時間 		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>基本教材1の課題1は6月末、課題2は8月末に初稿を提出すること。</p> <p>基本教材2の課題1は11月末、課題2は12月末に初稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論旨の明確さ、文章表現の妥当性、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	観察記録	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切にわかりやすく読者に理解してもらうことを念頭において論述すること。なお、できるだけ多くの文献資料を読んでみてほしい。CiniiやGoogleScholarなども積極的に活用してしてほしい。文献調査(実地調査も含む)を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。</p> <p>レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小笠原喜康 教材名： 『ハンズ・オン考：博物館教育認識論』（東京堂出版，2015年） ISBN:978-4-490-20919-8 3,400円＋税
	本教材は、博物館の教育について、認識論の観点から考察したものである。とりわけ構成主義的な知識論に対する批判が展開されるが、どのような知識観で考えるべきなのか、そもそも学びとは何か、知識とは何かという根源的な問題へと議論が展開されている。また、具体的な展示に関する事例をとりあげ、認識論の観点から展示のあり方やその解釈をめぐる問題なども検討している。
参考図書	J. レイヴ・E. ウェンガー（佐伯胖訳）『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』（産業図書，1993年） ISBN:9784782800843 2,400円＋税 米盛裕二『パースの記号学』（勁草書房，1981） ISBN:978-4-326-15124-0 3,300円＋税
履修上のポイント	本書を理解するには、哲学的な議論を踏まえておく必要がある。本書の各章で紹介されている文献等を読み、理解を深めてほしい。「知識」とは何か、「わかる」とは何か、これまでの当たり前を問い直し、本書を手がかりに自分なりに考察を深めてほしい。 また、実際に博物館を訪れ、具体的な展示を手がかりに検討してみたい。本書で試みている展示方法や展示の解釈に関する考察を参照しつつも、自分なりに展示の特徴や課題を発見するように努めてほしい。
レポート課題 1	第 I 部を読み、博物館教育における知識論の課題を整理しつつ、それに関する自分の見解を述べなさい。 留意点： 著者が批判している立場（主張）を踏まえつつ考察すること。
レポート課題 2	第 II 部を読み、博物館展示の方法や解釈について理解する。そのうえで、近くの博物館を訪れ、検討してみたい展示を探す。その博物館の概要や展示の特徴や解釈等を報告し、可能であれば改善案も示してください。なお、展示物が撮影可能な場合は、写真も添付していきましょう。 留意点： 「博物館」には、歴史・科学・芸術・動植物などの展示教育施設を含みれています。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 松尾豊『人工知能は人間を超えるのか—ディープラーニングの先にあるもの』 教材名： (KADOKAWA/中経出版，2015年) ISBN:978-4-75-032559-0 1,800円＋税 新井紀子『AI VS. 教科書が読めない子どもたち』（東洋経済新報社，2018） ISBN：978-4-492-76239-4 1,500円＋税
	松尾の著作は、人工知能とは何か、人工知能は世界をどう認識するのかをわかりやすく丁寧に論じたものであり、私たちに人間とは何かを投げかけてくるものである。また、新井の著作は、「東ロボくん」プロジェクトや「全国読解力調査」を基に、人工知能にできること、人間にしかできないことを考察している。どちらの著作も人工知能とこれからの教育を考える手がかりとなる。
参考図書	三宅陽一郎『人工知能のための哲学塾』（ビー・エヌ・エヌ新社，2016） ISBN:978-4802510172 2,400円＋税 新井紀子『改訂新版 ロボットは東大に入れるか』（新曜社，2018） ISBN:978-4788515635 1,500円＋税 新井紀子・東中竜一郎編『人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」：第三次 AI ブームの到達点と限界』（東京大学出版会，2018） ISBN:978-4130614078 2,800円＋税
履修上のポイント	人工知能の進展によってこれからの社会はどのように変化しようとしているのか。基本教材として挙げた著者たちは、人工知能や数理論理学が専門であるが、教育に関する議論にも積極的に参与している。ここでは、基本教材や参考図書、さらには自分で調べた情報などを手がかりに、人工知能とこれからの教育のあり方を考察することが課題となる。まずは人工知能とは何かを理解し、そのうえで、人間にしかできないことは何か、これからの人間にとっての教育とはどうあるべきかを考えてほしい。
レポート課題 1	松尾の著作を読み、自分が関心を持った内容（本レポートのテーマとして扱いたいもの）について、他の文献資料等を用いながら、自分の意見を述べなさい。 留意点： 基本教材からも正確に引用しつつ、他の文献と関連させながら、論述するようにしてください。
レポート課題 2	新井の著作を読み、「東ロボくん」プロジェクトなどが問いかける教育課題について理解を深めたい。このうえで、これからの教育のあり方をどう考えるのかを述べなさい。 留意点： 「ロボットは東大に入れるか」に関連する参考図書などを読みながら、人工知能にできること、人間にしかできないことについて理解を深めること。